

# 滝沢市水道事業のあゆみ

## ～第2次拡張事業～

- ◎主要施設：柳沢取水ポンプ場、湯舟沢配水池など
- ◎おもな給水地域：湯舟沢、元村北部
- ◎事業費：606,000千円

## ～小岩井簡易水道事業～

- ◎主要施設：小岩井浄水場
- ◎おもな給水地域：小岩井
- ◎事業費：387,703千円

## ～第1次拡張事業～

- ◎主要施設：柳沢低区・高区浄水場
- ◎おもな給水地域：巢子、川前
- ◎事業費：2,200,000千円

## ～創設事業～

- ◎主要施設：滝沢浄水場
- ◎おもな給水地域：鶴飼、元村
- ◎事業費：828,916千円



柳沢取水ポンプ場

小岩井駅を中心に広がった小岩井地区は、1971年（昭和46年）頃より民間の開発団地の造成が進み、人口が増加し始めました。この地域は水資源に恵まれず地下水の確保が困難だったことから、早急な水道整備を切望され1984年（昭和59年6月）に事業認可を受け、1986年（昭和61年2月）に事業完了しました。



柳沢低区浄水場

「南部片富士」の名で知られる秀峰岩手山のふもと、豊かな大自然に抱かれたわがまち滝沢は、昔から清浄で豊かな井戸水に恵まれたため、1960年代まで水道の普及を要しませんでした。しかし、まちの都市化がすすみ、県都盛岡市のベッドタウンとして急激に人口が増加すると、水質汚染による水系伝染病の防止のため、滝沢でも上水道の導入を進めることとなりました。1973年（昭和48年3月）に創設を認可されたのち、1975年（昭和50年4月）整備が完了した鶴飼・元村地区から給水を開始しました。こうして、1977年（昭和52年3月）に金沢川を水源とする滝沢浄水場を主要施設とした、最初の上水道を完成させました。

1990年

1980年

1970年

大規模団地の造成に伴う水需要の増加により、1990年（平成2年7月）第2次拡張事業に着手しました。（事業は1992年（平成4年3月）に完了）  
柳沢に新たな水源を確保し、岩手山麓の地下水の利用を開始しました。また、この時整備された湯舟沢配水池は、柳沢低区配水池から送水された水を貯留し、主に湯舟沢地域に供給しています。



湯舟沢配水池



柳沢高区浄水場

滝沢駅周辺や国道4号沿いの巢子、川前地区には民間の開発団地造成が進み、東北自動車道を挟んで東西に大規模団地の計画がもたれるなど、その後も増え続ける人口に対応するため、1983年（昭和58年2月）に諸葛川を水源とする柳沢低区浄水場、柳沢の地下水を水源とする柳沢高区浄水場の整備を完了して巢子、川前地区へ給水地域を拡大しました。



滝沢浄水場

金沢川取水口 (Kanazawa River Intake Point)